

スポーツを楽しめる 環境の整備・施設の 充実

日頃からの体力づくり・健康づくりは、将来的なフレイル予防、生活習慣病予防にもつながるものです。市民の皆さんがスポーツに親しみ、より身近に楽しめる環境づくりに向けて整備を進めています。また、スポーツ大会や合宿の誘致を推進し、地域経済への波及効果を生み出すためにも、スポーツ施設の充実が必要とされています。

新たな市民プールの整備

府中市B & G海洋センターは老朽化が進んでいることから、府中駅南側に新たな複合型の市民プールを建設します。年間約5万人のプール利用者を活かして、i-coreFUCHUや道の駅びんご府中など府中駅周辺に新たな人の流れをつくり、エリア全体の賑わいにつなげていきます。



人工芝多目的グラウンドの整備

現在、府中市内には芝生の上でスポーツを行える環境がないため、ケガの防止や体への負担軽減にもつながる人工芝多目的グラウンドを上下運動公園に整備します。

県東部には人工芝グラウンドの数が少ないことから、整備が完了した際には、県内外からスポーツ合宿や大会を誘致することで新たな交流人口を呼び、地域経済の活性化にもつなげます。



このほか、体育館やグラウンドなどのスポーツ施設の適正な配置と計画的な修繕を行い、環境の整備を進めていきます。

東京2020 オリンピック・パラリンピック

新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となりましたが、57年ぶりに東京で開催されました。府中市でも聖火リレーが予定されていましたが、公道でのリレーは中止となり、福山市で行われた点火セレモニーで、府中市在住の中林日登美さんらが聖火をつなぎました。



パラリンピック事前合宿

パラリンピック卓球・ボッチャのメキシコ選手団のホストタウンとして、事前合宿の受け入れを実施しました。合宿期間中には、府中明郷学園の児童・生徒の皆さんと、Web交流も行いました。今後も、スポーツだけでなく文化や食などを通じて、メキシコとの交流を行っていく予定です。



府中市ゆかりの選手の活躍

パラリンピックには、上下町在住の渡邊裕介選手（射撃競技）と、上下高校出身の川本翔大選手（自転車競技）が出場されました。市内各地に応援の横断幕が設置されるなど、府中市からも熱いエールが送られました。



射撃競技に出場された渡邊裕介選手

府中にしかない オンリーワンスポーツ



府中市は、令和2年度に広島県の「わがまち♥スポーツ推進事業」のモデル市町の一つに選定されました。「ものづくりのまち府中市」のブランドを活かして、ものづくり（テクノロジー）とスポーツ資源を融合させた「TECHY SPORTS（テッキースポーツ）」による地域の活性化を目指し、さまざまなスポーツイベントを実施しています。



府中市まちなかマラソン

今年度、約10年ぶりに市内でのマラソン大会が復活。市中心部を実際に走るオフラインのリレーマラソンと、スマートフォンなどを活用して全国どこでも楽しめるオンラインマラソンを組み合わせた、県内初のハイブリッドマラソン大会として開催しました。

昨年度開催したオンラインマラソン大会には、北は北海道から南は沖縄まで約700人に参加いただくなど、府中市の取り組みは全国から注目されています。

全日本E V & ゼロハンカーレースin府中

学生や社会人など幅広い世代の選手が、エリアを越えて全国各地から出場する本格的なモータースポーツの大会としては、全国でも例がない府中市だけのオンリーワンのスポーツイベントです。例年、岡山県や愛媛県、遠いところでは三重県や沖縄県などから参加されています。

学生と一般の部門に分かれ、2サイクル、4サイクル、E V、手作りのエンジンごとでレースを行います。今年2月に開催された第12回大会には、地元の府中東高校から2チームが初エントリーし、迫力あるレースが繰り広げられました。



府中市ドローンレース全国大会

レース専用のドローン（無人航空機）を用いて、屋外でタイムや周回数を競うレースです。レーサーの操縦技術の高さと立体的な軌道を描きながら高速で飛び回るドローンの迫力には、目を見張るものがあります。

8月末に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令を受けて中止となりました。中止までには、全国のトップレベルのレーサーから多数の参加申し込みがあったので、「この熱を来年に繋げよう！」と、オンラインのシミュレーションレースを実施しました。

